

日本でも欧州でも百貨店業界再編が進む

◆岐路に立つ百貨店業界、業績不振で閉店や譲渡で再編が進む

セブン&アイ・ホールディングスは、2016年9月末に西武旭川店とそごう柏店を閉鎖したのに続き、2016年10月6日には、阪急阪神百貨店を核に関西地域に強いエイチ・ツー・オー リテイリング（H2O）に、そごう神戸店など関西の3店舗を譲渡すると発表した。H2Oは、3店舗の受け入れで売上高1兆円を目指す。

地方店舗の閉鎖の波は今後も続く。百貨店業界最大手の三越伊勢丹ホールディングスは、三越千葉店と三越多摩センター店を17年3月に閉店すると発表した。

◆中間層の所得が伸び悩む中、海外では老舗百貨店の倒産や国境を超えた再編も

海外に目を転じると、オランダの老舗V&D が倒産し、2月に全店閉店した。一方、カナダのハドソンズ・ベイ・カンパニーは、今後オランダで20店舗の百貨店を開店、高級品を扱う店とディスカウントショップを展開する。同社は、15年にドイツのカウフホフを買収し、傘下のベルギーのガレリア・イノも手中に収めた。中間層の所得の伸び悩みによる消費の2極化やネット通販の拡大により、海外では、国境を越えての再編も起こっている。プランタン銀座の本家、フランスのプランタンも、経営権が何度も変わり、国外の店舗も撤退続きた。

◆銀座の松坂屋跡地は「脱・百貨店」、松坂屋を冠しない商業施設に

ピーク時の91年に9兆円の売上高があった日本の百貨店の市場規模は、15年は3分の2の6兆円にまで縮小した。J・フロントリテイリングは10月、松坂屋銀座店跡地に商業施設「GINZA SIX」を17年4月に開業すると発表した。地上13階建てのビルは、森ビルやフランスの高級ブランドLVMHが出資する不動産会社が運営に参画し、オフィスや高級ブランドのディオール、フェンディ、セリーヌなどの旗艦店や蔦屋書店、地下には能楽堂が入る。Jフロントは、「これまでの50年間で築き上げてきた成功体験やビジネスモデルが通用しない」として松坂屋の名前を付けなかった。同じ銀座地区の百貨店プランタン銀座も、12月で閉店し、商業施設「マロニエゲート銀座」として17年春に再出発する予定だ。 【赤山英子】